

私立 筑紫女学園大学 筑紫女学園大学短期大学部

取組名称 「就職基礎能力」向上を目指したキャリア支援の拡充

取組担当者 学生部長・教授 古賀野 卓

1. 本学の概要

筑紫女学園は、米国布教（浄土真宗本願寺派第2代北米教総長）から帰国した水月哲英が、当時ほとんど女子に教育の門戸を閉ざしていたわが国にも高度の女子教育の必要性を痛感し、高等女学校の設立を思い立ったことを契機として、1907(明治40)年5月に「筑紫高等女学校」として開設された。

設立にあたっては、当時の寺院、有志、また本願寺の協力援助を得、校地校舎は筑紫郡警固村（現福岡市中央区）の旧仏教中学の後を引き継ぎ、水月哲英自ら校長としてその後の経営の人に当たったことに始まる。

特に、大学・短期大学部については、1965(昭和40)年に第2代理事長水月文英により筑紫女学園短期大学（2005(平成17)年4月から筑紫女学園大学短期大学部に改称）が、1988(昭和63)年に第4代理事長水月哲雄により筑紫女学園大学が設置された後、幾度かの改組を経て、現在では大学に1研究科1専攻（人間科学部人間科学専攻）、1学部6学科（文学部一日本語・日本文学科、英語学科、英語メディア学科、アジア文化学科、人間福祉学科、発達臨床心理学科）、短期大学部に2学科（現代教養学科、幼児教育科）を置くに至っている。

今日まで100年にわたっての学園の歩みは、地域社会の強い要望と、創立以来本学園の願い（建学の精神）としてきた仏教—浄土真宗—親鸞の教えを基に、『自律・和平・感恩』の校訓を掲げ、人間としての真の生き方を問い、「ひと」として自立できるとともに、さらに高度の学識と豊かな徳性を備えた女性の育成を目的としている。

2. 本取組の概要

2010(平成22)年2月に改正され大学設置基準では、2011(平成23)年度から、「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能

力」を就業力と定義し、大学に対し、就業力、すなわち学生が自分に合った仕事を見つける能力をキャリア教育等の実施をするように義務づけている。

本学では、従前から、正課教育及び正課外教育を通じて、卒業後の人生を見据え、社会人・職業人としての自立を支援すべく、様々な就業力育成に向けた取組を行っている。

まず、正課における教育課程としては、キャリア支援の一環として「ボランティア論」「キャリアプランニング」、インターンシップ参加者のための「キャリア支援特殊講義」という科目を開講している。

さらに、進路支援課による正課外の就職指導として、全学年及び就職活動年次を対象に行う「キャリア支援プログラム」を用意している。加えて、各学科担当職員による学生への個別面談・個別相談にも力を入れ、学生一人ひとりが納得の行く進路選択ができるように支援活動を行っている。

このほか、学内では、いわゆる学友会等の学生自治組織とは別に、学生たちによる様々な形の自主活動の取組が活発になされており、こうした活動を通して、社会に通用する学生の育成を目指して大学として職業的・社会的自立に向けた支援活動を行っている。

本学は伝統的に多くの分野で活躍する優秀な人材を輩出しており、本学卒業生の同窓会である紫友会も在学生の就職支援に協力をしてもらうなど、学外のネットワークの力を借りながら、様々な局面から学生の自立に向けての教育機会を充実させるよう努力をしてきた。

本取組は、本学における、そうした社会的・職業的自立に向けての総合的な支援体制のなかで、進路支援課が中心に担ってきたキャリア支援プログラムを補強するものの一つと位置づけている。具体的には、就職環境が厳しい昨今、企業との関係をこれまで以上に強化し、学生自らが、就業に向けての基礎学力を向上させ、同時に、高い就職意欲を保つという、いわゆる「就職基礎能力」を向上させることを目的としたものである。

その取組は、以下のとおり大きく2つに分けることができる。

①卒業生と大学、地場企業と大学の絆を深め、学外のネットワークの力を強化することを目的とした「OGカミングディ」等の開催。

②就職基礎能力の向上を目的とした採用活動直前の対策としての「SPI解法講座」「表情を磨く講座」等、ステップアップ講座の開催。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 本学学生の課題

各種検定講座やキャリア支援プログラムを実施してきた進路支援課は、本学学生の「就職基礎能力」について、その特徴及び当面の課題について、以下のとおりまとめを行った（2010(平成22)年6月）。

- ・筆記試験対策をコツコツと行い特に数学で60点以上とること。
- ・企業の合格ボーダーライン120点（6割）。
- ・200点満点のうち全国平均84.5、筑女76.3。
- ・数学は特に悪く、全国平均の半分にしかならない。
- ・数学は採用試験では避けては通れないので、アルバイトに明け暮れるのではなく、夏休み等にしっかり学ぶ。
- ・秘書やサービス検定講座でマナーを取得し日常生活に取り込む。
- ・集団の中で理論的にまとめて話す能力を講義やゼミで積極的に習得する。
- ・大学の講義履修をしっかりと自己管理する。
- ・本学に頂く求人に目を向ける（会社名で企業を選ばずに業務内容や経営方針等で選ぶ）。
- ・履歴書の内容を理論的に展開する（しっかり本を読む）。
- ・自律した職業観をもち、それを大人相手に（面接官に）説明できる。
- ・しっかりと会社分析を行い、店舗見学等積極的に行う。
- ・進路支援課の担当者に学生が主体的に相談連絡報告を行う。
- ・採用試験を受ける前に考えすぎず、まずは説明会に参加して企業を知ることになる。

(2) 本取組の趣旨及び達成目標

こうした本学の学生の特徴をふまえて、大学がどのような方向性で就職基礎力の向上を図っていくべき

か。本取組の概要で述べた2つについて、それぞれ説明した。

まず、①に関して、地域密着型の女子大である本学では、地元での就職を目指す学生が多い。そこで「OGカミングディ」において、卒業生や企業担当者からのアドバイス等により地元企業を理解することで就職へのモチベーションをさらに高めることを趣旨とした。卒業生が気軽に母校を訪ねることで、様々な生き方をする卒業生自身がリフレッシュして明日への活力にするのはもちろん、在学生との交流（パネルディスカッションや相談コーナー等）を通して、先輩と後輩のつながりをこれまで以上に深めて、社会人・職業人としての充実した生き方等について考える機会とする。

②に関しては、「SPI解法講座」、「表情を磨く講座」等、ステップアップ講座を通して、学生が就業に向けての学生自身の得意分野や苦手分野の確認を行う、基礎学力の向上を図ることを目的としている。SPIについては、筆記試験の中でも最も代表的なものであり、その攻略のための勉強会は希望する職種へチャレンジする上での重要度は高い。また、「表情を磨く講座」は、面接試験対策と言えるものであり、企業の研修担当の講師による第一印象等のアドバイスを受けることを目的としている。これらのステップアップ講座を通して、一人ひとりの学生の就職基礎力を強化する取組である。

次に、こうした取組がどのような目標へとつながっていくかについて述べたい。まず、就業力育成のためには、仕事をこなすために必要とされる当該分野の知識や技能が求められるが、それと同時に、それぞれ目指す職種、なりたい自分へと向かう意欲・関心・態度が重要となることは言うまでもない。本取組では、学生が様々な卒業生や企業担当者と出会うなかで、自分自身の可能性を信じ、目標を見つけようとする行動力を身に付けるようになることを目標とした。

また、こうした個々のニーズに応じた進路支援活動の成果として、就職内定率90%以上を確保することを目指したい。また、数字に表れにくい成果として、就職活動そのものへの学生たちの満足度をさらに向上させることを達成目標とする。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

本取組の推進母体は進路支援課であるが、内容につ

いては、企業（人事担当者）、本学のキャリア支援教育を担当している教員、卒業生や内定した先輩学生からの助言やアドバイス等も反映させている。さらに、必要に応じ、各プログラムを経験した学生たちの意見も聞きながら、フィードバックが可能となるような取組を目指した。取組の具体的内容は以下のとおりである。

(i) OGカミングデイの開催

- ・日時：2010(平成22)年7月29日（9：10～16：20）
ねらい及び内容：本学の祝祭日の講義日を利用して、卒業生が母校を訪れる機会をつくり、在學生と卒業生の関係強化をはかり、在學生はいろんな分野で活動する先輩の姿・生き方を知って、進路選択の一助にする。
- ・13：10～14：40 大学2年生対象の「キャリアプランニング」授業において、卒業生5人による講話。
- ・14：50～16：20 4号館2階ラウンジで、5人による個別相談会。

(ii) ステップアップ講座

- ①エントリーシート攻略講座 2010(平成22)年2月1日、2日、3日 各日、13～16時。エントリーシート攻略講座（追加開催）2010(平成22)年3月2日、3日、4日 各日、13～17時。（内容：プロの外部講師によるエントリーシート・履歴書の内容に関する個別指導）
- ②SPI解法講座 2010(平成22)年2月15日、17日 各日、午前の部と午後の部（内容：初めてSPIについて学ぶ学生を対象に、解法の基本的パターンを解説。問題演習をしつつ解説を加える講義）
- ③表情を磨く講座 2010(平成22)年2月15日、17日 各日、午前の部と午後の部。表情を磨く講座（追加開催）2010(平成22)年2月18日 13～17時。（内容：立ち居振る舞い、表情・笑顔、身だしなみ、声の大きさ、話すスピード等、面接試験の際に自分らしさを出せるようにするための指導）
- ④ホスピタリティを身につける講座 2010(平成22)年2月23日、24日、25日 各日、10時30分～15時30分。（内容：航空・ホテル・旅行業界等、サービス業界に就職を希望している学生に対し、3日間の集中講義を通して、ホスピタリティを身につけるための指導）



写真2 エントリーシート攻略講座の様子

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) ステップアップ講座への評価を手がかりとして

本取組の評価についてであるが、最終的には、本学が提供する正課及び正課外の教育を通して、本学学生が社会的・職業的自立に向けて、高いモチベーションを維持しながら、最終的に、卒業後に自らの望む業種・職種につけるような能力が身につくかどうかということになる。短期的には、今こうした支援プログラムを受けている学生たちが実際にどのように感じ、今現在進行中である就職活動にどのようにつなげていくにかかっていると思う。

ここでは、本取組の②のうち、「ホスピタリティを身につける講座」を受けた学生の感想を披瀝しながら、学生たちが、講座を担当した講師の話をどのように評価し、自らの就労意欲がいかに変化したか、また、これらの取組を企画した進路支援課に対してどのような評価をしているかについて紹介したい。

・ホテル日航福岡の担当者への評価

「ホテル業界のお話を聞いて、お客様の顔を一人ひとり覚えることや、正しい敬語、立ち居振る舞い、お客様とのコミュニケーション等レベルの高い接客スキルを持つことは大変なのだなど改めて感じました。どの職業においても、気配りや心配りを大切にしていかなければならないということも知ることができ、よかったです。劇場等の予約や、おすすめの店等も把握しておくこともホテル業界の仕事の一つと知り、勉強になりました。」

・JR九州の担当者への評価

「笑顔がいかに大切か改めてわかりました。なぜかという笑顔なしでは接客業が成り立たないからです。笑顔の練習をしたり積極的に人とコミュニケーションをとりたいと思います。私は将来カウンターセルの仕事を通じていろんな人と出会い、学びたいと思っています。今のうちから無駄な時間を極力少なくし

ていきます。そして業界のことも少しずつ勉強していきます。お話聞かせていただきありがとうございました。」

・進路支援課に対する評価

「充実した3日間だったと思いました。アルバイトでは学ぶことのできない、また違ったホスピタリティの気付きにもなりとても勉強になりました。女性っぷりを上げるについて、日頃の生活のなかでも取り入れることができるメイクの仕方や姿勢、立ち居振る舞い等活用していきたいと思いました。それから「私はこうなりたい!」と友だちに言うことで、自分のモチベーションがあがることに気付きました。春休み中ということではなかなか会うことができない友だちとも会え、互いを刺激しあえるという点も参加してよかったと感じました。本当にありがとうございました。」

「私は3日間苦手な早起きをしたことで、夜寝る時間が増え、私の中で規則正しい生活を心がけることができましたので、これからは当たり前のことですが、『早寝早起き』を徹底してがんばります。各業界の先輩にまず感謝でした。『就職活動は一人ではできない』と言われる意味がこの講座でようやく理解できました。周りの協力なしには何も進めることができないので、一人よがりの就職活動にならないようにしたいです。講座はあつという間で3日間楽しく受講させていただきました。」

(2) 就職内定率の向上に関して

2010(平成22)年9月30日現在の内定状況を見みると、昨年同期と比べて、大学で7ポイント、短期大学部でも7ポイント向上している。ステップアップ講座を含めた、本学における就業力支援の取組が、どのように今年度の就職内定率の向上と結びついているか短絡的に評価することはできない。しかしながら、今年度の求人情報が大幅に減少したとされる昨年度に比べて、さらに3割ほど減少してきた状況のなかで、内定率が向上しているということは、注目に値することと思われる。内定率の向上は、実際の就職斡旋に当たる進路支援課職員の努力はもちろんであるが、就職活動に向かう学生自身の意識の変化なしでは実現できないことと思われる。

こうしたことの確認のためにも、本取組の最終的な評価については、進路支援課では進路支援委員会と協力しながら、学生による、自らの就職活動への振り返りや就職支援に対する本学の取組についての満足度調査を実施したいと考えている。それを受けて、今後の、

本学におけるキャリア支援プログラムの強化や見直しを図っていきたいと考えている。

6. 本取組の実施計画等

周知のように、こんにちの就職活動は、昔とは様変わりしている。1990(平成2)年代以降の景気の悪化に伴い、多くの企業が新規採用を手控えており、その状況下において、一番の影響を受けているのが、若年層であり、本学学生含め、全国の多くの若者が正規雇用に就くということが非常に厳しくなっている。

こうしたなか、菅内閣も、新卒者、既卒者の雇用を確保するために、総理大臣直属の特命チームをつくり、雇用対策にのりだしている。それは、正規雇用を前提にトライアル雇用を実施する企業や、さらに、新卒に限らず卒業後3年以内の就職希望者を正規雇用する企業に奨励金を出すなど、企業が雇用を手控えることのないようにとする対策である。

政府のこうした対策がどのような実効性をもつかは未知数である。しかしながら、学生たちが、個人としてなすべきこと、さらに、多様化する就職を支援するわれわれが大学としてなすべきことは何か、それぞれの役割をしっかりと果たしていくことが大切と思われる。

個々の学生にとっては、就職先という、選択肢そのものが減っていくなかで、自分のやりたいこと、できることは何であるのか、どのような職種、業種で探していけばいいのか、これまで以上に、自分自身を見つめる作業に本格的に着手することが求められる。

自分が本当にやりたいことというのは、見つけにくいものである。しかし、自分ができる仕事を見つけ、その仕事を丁寧に行い、年月を積み重ねることで、次第に職業意識も芽生え、やりがいが見つかることもあるかと思う。

就業力の支援について、大学として、就職に向けて、仕事を遂行するための必要な知識や技能を育てること、あるいは新規企業の開拓等、就職先の確保が重要であることは言うまでもない。しかしながら、大学における教職員が一体となって、一人ひとりの学生に対し、こうした、できる仕事を丁寧に継続していくことの大切さ等の職業意識を育てていくことは、今後の就業力支援の重要な柱と考えられる。